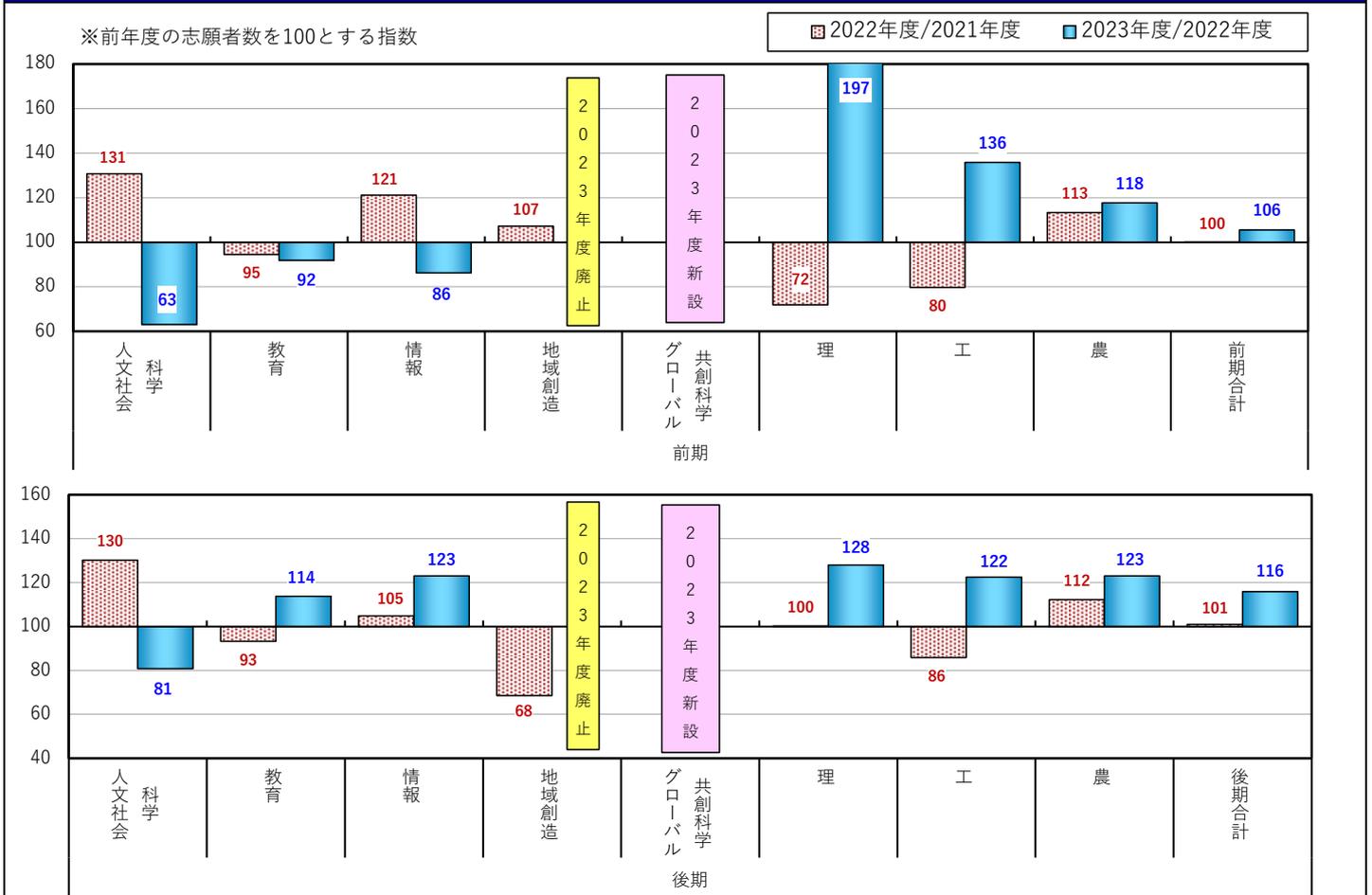


静岡大：前期はやや増加、後期は大幅増加、理系学部への人気上昇 前期：+150人 後期：+565人



主な入試変更点 学部新設：グローバル共創科学…<前>47人、<後>20人
 募集停止：地域創造…<前>25人→0人、<後>5人→0人
 個別試験：工(化学バイオ工)<前>数+理+外 ※理：物 or 化 ※理科の選択から生除外

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数
 大学全体では、前期は150人(106)のやや増加で、前年度微増に引き続き2年連続増加。新設のグローバル共創科学と募集停止の地域創造を除く既存学部の比較でも(105)のやや増加。既存6学部では増減が3学部ずつに分かれ、理(197)、工(136)、農(118)は大幅増加で、「理高文低」の動向が顕著。後期は共通テストの平均点アップによる強気な出願もあって565人(116)の大幅増加で、前年度微増に引き続き増加。既存学部での比較でも(113)の増加。既存6学部では文(81)を除く5学部が増加。理(128)、農(123)、工(122)はいずれも大幅増加。情報(123)も大幅増加で2年連続増加。

- <前期日程>
- 人文社会科学(63)は、2年連続大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、4学科中で増加は前年度大幅減少の反動による(経済)(125)の大幅増加のみ。他の3学科はいずれも減少。特に、(法)(22)は前年度3.4倍増の反動で80%近い激減、志願者数79人、志願倍率1.5倍は過去20年間でも最少・最低。(社会)(78)は2年連続増加の反動で大幅減少、(言語文化)(87)は減少。
 - 教育(92)は、系統への低い人気から3年連続減少。ただし、募集人員の16%減少により志願倍率は2.1倍→2.3倍にアップ。専攻・専修別では、16募集単位中で増加が9募集単位、前年度と同数が2募集単位、減少が5募集単位。減少の5募集単位はいずれも募集人員が10人以上の比較的大きい募集単位で、いずれも大幅減少だったことが学部全体の減少の要因。
 - 情報(86)は、前年度大幅増加の反動で減少。学科・選抜区分別では、前年度の全て増加から一転して全て減少。特に、(行動情報)<選抜区分B>(63)は3年連続減少で、志願者数22人は2016年度に学科新設以降では最少。志願倍率も2.3倍→1.5倍にダウン。(行動情報)<選抜区分A>(65)は前年度大幅増加の反動により大幅減少。この2つの募集単位は個別試験が共通の総合問題だが、そこに含まれる数学B「確率分布と統計的な推測」の分野が共通テスト文系型受験者の<選抜区分B>への敬遠の要因となっている。(情報社会)(87)は前年度大幅増加の反動で減少。
 - 新設のグローバル共創科学は、募集人員47人、志願者数130人。志願倍率は2.7倍で、前期全体の2.7倍と同じ。
 - 理(197)は、前年度大幅減少の反動でほぼ倍増、志願倍率は1.9倍→3.8倍にアップ。学科・コース別では、6募集単位が全て増加。(生物科学)(408)は3年連続大幅減少の反動で4倍増以上、志願倍率は1.2倍→4.9倍に大幅アップ。(創造理学)(208)は前年度大幅減少の反動で倍増以上、志願者数は2021年度にコース新設以降では最多。(化学)(189)、(物理)(174)は激増、(数学)(158)、(地球科学)(151)は大幅増加。
 - 工(136)は、2年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、5学科全てが増加。(電気電子工)(161)は前年度半減以下の反動で激増。(機械工)(154)は3年連続減少の反動で大幅増加、(数理システム工)(138)も前年度減少の反動で大幅増加。(電子物質科学)(110)は2年連続減少の反動で増加。(化学バイオ工)(103)はやや増加で2年連続増加。
 - 農(118)は、系統への高い人気から大幅増加で3年連続増加。2016年度の学科改組以降では志願者数が最多。学科別では、(生物

資源科学(140)は2年連続大幅増加、学科改組以降では志願者数では最多。一方で、(応用生命科学)(93)は2年連続増加の反動でやや減少。

<後期日程>

- 人文社会科学(81)は、2年連続大幅増加の反動で大幅減少。学科別では、4学科中3学科が減少、増加は前年度大幅減少の反動による(経済)(188)の激増のみ。(法)(38)は前年度約2.5倍増の反動で激減、(言語文化)(71)、(社会)(78)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 教育(114)は、2年連続減少の反動で増加。募集人員の17%減少も加わり、志願倍率は8.8倍→12.1倍にアップ。専攻・専修別では、募集を行う10募集単位中で増加が6募集単位、前年度と同数が2募集単位、減少が2募集単位。
- 情報(123)は、大幅増加で2年連続増加。学科別では、(行動情報)(175)は前年度大幅減少の反動で激増、(情報社会)(149)は3年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(情報科学)(86)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 新設のグローバル共創科学は、募集人員20人、志願者数174人。志願倍率は8.7倍で、後期全体の志願倍率8.4倍を上回った。
- 理(128)は、大幅増加。学科・コース別では、6募集単位中5募集単位が大幅増加だが、特に(生物科学)(180)、(化学)(161)は激増。一方で、(創造理学)(44)は半減以下で、2020年度以降前年度の反動による大幅な増減が継続。
- 工(122)は、2年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、5学科全てが増加。特に(電気電子工)(157)は2年連続減少の反動で大幅増加、(化学バイオ工)(121)は3年連続減少の反動で大幅増加、(機械工)(119)は大幅増加で2年連続増加。
- 農(123)は、系統への高い人気から大幅増加で3年連続増加。志願倍率は7.7倍→9.5倍にアップ、募集人員が45人になった2016年度以降では最高。学科別では、(応用生命科学)(137)は大幅増加、(生物資源科学)(114)は3年連続増加。